

Emacs auth-source Library

by Ted Zlatanov

このファイルは Emacs auth-source ライブラリーを説明します。

Copyright © 2008--2026 Free Software Foundation, Inc.

Permission is granted to copy, distribute and/or modify this document under the terms of the GNU Free Documentation License, Version 1.3 or any later version published by the Free Software Foundation; with no Invariant Sections, with the Front-Cover Texts being “A GNU Manual,” and with the Back-Cover Texts as in (a) below. A copy of the license is included in the section entitled “GNU Free Documentation License”.

この文書を、フリーソフトウェア財団発行の GNU フリー文書利用許諾契約書第 1.3 版またはそれ以降の版が定める条件の下で複製、配布、あるいは変更することを許可します。変更不可部分は指定しません。“A GNU Manual”は表表紙テキスト、以下の(a) は裏表紙テキストです。この利用許諾契約書の複写は「GNU フリー文書利用許諾契約書」という章に含まれています。

(a) The FSF’s Back-Cover Text is: “You have the freedom to copy and modify this GNU manual.”

(a) FSF の裏表紙テキスト: 「あなたにはこの GNU Manual を複製したり変更する自由があります。」

目次

1	概要.....	1
2	利用者のためのヘルプ.....	2
3	複数の GMail アカウントを Gnus で扱う.....	5
4	シークレットサービス API.....	6
5	Unix パスワード・マネージャー.....	9
6	開発者のためのヘルプ.....	11
付録 A	GnuPG および EasyPG アシスタントの設定.....	13
付録 B	GNU Free Documentation License.....	14
	Index.....	22
	Function Index.....	23
	Variable Index.....	24

1 概要

auth-source ライブラリーは、「私のユーザー名とパスワードは何だっけ?」という昔ながらの切迫した問いに答えるための、Emacs と Gnus 用の数ある単純な手段の一つです。

(これは「消火器はどこだ?」という古くからの切迫した問いとは異なります。)

Auth-source ライブラリーは単なるユーザー名やパスワード(いわゆる秘密) 以外のものも扱うことができます。

同様に auth-source ライブラリーは多くの貯蔵バックエンド、現在は伝統的な“netrc”バックエンド(この文書の後の方に例があります)、JSON ファイル、シークレットサービス API、そして‘pass’、すなわち unix の標準パスワード・マネージャーをサポートします。これは EIEIO に基づいたバックエンドで行なわれ、もし必要ならあなた独自のものを書くことができます。

2 利用者のためのヘルプ

“Netrc” ファイルは事実上の標準です。それらはこのようになっています:

```
machine mymachine login myloginname password mypassword port myport
```

`machine` はサーバーです(DNS 名または IP アドレスのどちらか)。`auth-source-search` 検索における`:host` でもあります。

`port` は接続するポートまたはプロトコルです。`auth-source-search` 検索における`:port` でもあります。

`user` はユーザー名です。`auth-source-search` 検索における`:user` でもあります。`login` および`account` も使うことができます。

通常、合致するエントリーは出現する順序で使われるので、ファイルの最初に最も具体的なエントリーを置いておくとい良いでしょう。例えば:

```
machine example.com login foobar password geheimnis port smtp
```

```
machine example.com login foobar password hemmelig
```

ここでは`smtp` サービスには、あるパスワードを使い、他のすべてのサービスでは別のパスワードを使っています。

さらに、このファイルを TLS 接続を設定するときに使うクライアント証明書を定義するために使うこともできます。そのフォーマットは次の通りです:

```
machine mymachine port myport key key cert cert
```

`key` と `cert` はそれぞれ `key` を含むファイル名と使用する証明書です。ネットワーク接続でそれらを自動的に使用するには`:client-certificate t` を `open-network-stream` に渡すか`network-stream-use-client-certificates` を `t` にカスタマイズしてください。

シングルのまたはダブルクォートで囲むことによって、パスワードや他の要素の中で空白文字や番号記号("#") を使うことができます。

ダブルクォートで囲むことによって、パスワードや他の要素の中で、アポストロフィー(') を使うことができます。例えばこんなふうに: `"he'llo"`

同様にアポストロフィーで囲むことによって、パスワードや他の要素の中で、ダブルクォートを使うことができます。例えばこんなふうに: `'he"llo'`

両方を混ぜて使うことはできません(つまりパスワードなどの要素は、アポストロフィーとダブルクォートの両方を持つことはできません)。

すべてこれらは任意です。どこでも同じパスワードを使うために、ただ単に

```
password mypassword
```

と設定することができます---ということが可能であることを示しているのであって、それを推奨しているわけではありません。繰り返しますがこれは使わないでください。さもないとひどい目に会うでしょう。

“Netrc” ファイルは通常`.authinfo` または`.netrc` と呼ばれます。今では`.authinfo` の方が普及しているようですが、後でわかるように `auth-source` ライブラリーはそれらの両方を受け入れるために、この混乱を助長しています。

もし検索で問題があるのなら`auth-source-debug` を `trivia` に設定して、ライブラリーがどのホスト、ポートおよびユーザーをチェックしているかを `*Messages*` バッファで見てください。同様に他のどんな問題についても、何がチェックされているかを調べるのが、あなたの第一歩です。第二のステップはもちろんそれについての blog を書いて、コメントで回答を待つことです。

ユーザーオプション `auth-sources` をカスタマイズすることができます。もし古いバージョンの Emacs を使っているか、何かの理由のために `auth-source` ライブラリーが読み込まれない場合、次のものが必要になるでしょう。

```
(require 'auth-source)           ;; おそらく不要
(customize-variable 'auth-sources) ;; 任意、一回だけ行なってください
```

`auth-sources` [ユーザオプション]

ユーザーオプション `auth-sources` は、個々のホストとプロトコルのための `netrc` ファイル、シークレットサービス API の収集物、またはあなたの保存したパスワードがどこに在るかを `auth-source` ライブラリーに知らせます。好みに応じてどうにでもできますが、ディフォルトの最も簡潔な設定は次の通りです:

```
;;; 旧ディフォルト: :host と :port が必要だったが、もはや不要。
(setopt auth-sources '(:source "~/authinfo.gpg" :host t :port t)))
;;; ほぼ等価だが、より短い (後述の fallback についての記述を参照)。
(setopt auth-sources '(:source "~/authinfo.gpg"))
;;; さらに短い:
(setopt auth-sources '("~/authinfo.gpg" "~/authinfo" "~/netrc"))
;;; シークレット API の Login コレクションを使う
;;; (see Chapter 4 [Secret Service API], p. 6)
(setopt auth-sources '("secrets:Login"))
;;; パス (~/.password-store) を使う
;;; (see Chapter 5 [The Unix password store], p. 9)
(auth-source-pass-enable)
;;; [{ "machine": "SERVER", "login": "USER",
;;;   "password": "PASSWORD" }...] というフォーマットの JSON データ
(setopt auth-sources '("~/authinfo.json.gpg"))
```

特定のホストかプロトコルのエントリーを複数 `auth-sources` に追加することによって、そのホストかプロトコルに特化した `netrc` ファイルを持つことができます。普通これは必要ありませんが、`netrc` ファイルを共有したり変わった設定がある場合は意味があるかもしれません(90% の Emacs ユーザーは変な設定を持っていて、残りの 10% は本当に変わっています)。

これは、混在する 2 つのソースを使う例です:

```
(setopt auth-sources '(:source (:secrets default)
                               :host "myserver" :user "joe")
  "~/authinfo.gpg"))
```

もし `auth-sources` をカスタマイズしないと、ディフォルトで生活することになるでしょう。そのディフォルトとは、どんなホストやポートについても暗号化されていない `netrc` ファイル `~/authinfo` が(もしあれば) 使われるということです。すべての秘密を平文で公開してしまうので、これはお勧めできません。

もしそれに失敗すると、どんなホストやポートも `netrc` ファイル `~/authinfo.gpg` で探します。こちらは GnuPG で暗号化されたファイルです(see 付録 A [GnuPG and EasyPG Assistant Configuration], p. 13)。

(それも失敗する場合は) どんなホストやポートについても暗号化されていない `netrc` ファイル `~/netrc` が使われます。

代表的な netrc 行の例は、ポートが無いものです。

```
machine YOURMACHINE login YOU password YOURPASSWORD
```

これはどの認証ポートにも対応します。簡単でしょう？ でも SMTP サーバーが IMAP サーバーと異なるパスワードを必要とするそのマシンのポート 433 にあるならば、どうですか？

```
machine YOURMACHINE login YOU password SMTPPASSWORD port 433
machine YOURMACHINE login YOU password GENERALPASSWORD
```

あるマシンが使う特定の SMTP 認証方法を指定するには `smtp-auth` キーワードを使ってください。使うことができる方法については See Section “Authentication” in *Emacs SMTP Library*.

`url-auth` 認証(HTTP/HTTPS) のためには、これを netrc ファイルに置いておく必要があります:

```
machine yourmachine.com:80 port http login testuser password testpass
```

これは HTTP で接続するどんな界面と認証方式(basic または digest) にも対応します。HTTPS も同様に設定します。もっときめ細かい制御が必要なら、`url-auth` のソースコードと変数を調べてください。

Tramp の認証にはこれを使ってください:

```
machine yourmachine.com port scp login testuser password testpass
```

ポートは Tramp の接続方法を意味することに注意してください。もしポートの項を使わなければ、最初の方で説明したように、どんな Tramp の方式にも合います。Tramp にはおよそ 88 種類の接続方法があるので、変わった設定がある場合はこれが必要かもしれません(それらに関する前のコメントを見てください)。See Section “Password handling” in *Tramp*.

もしあなたがそんな類のものにはまっているのなら、netrc フォーマットを直接 JSON に翻訳しましょう。それには、次のようなエントリーを持っていて拡張子が `.json` のファイルを、単に指定すれば良いのです:

```
[
  { "machine": "yourmachine.com", "port": "http",
    "login": "testuser", "password": "testpass" }
]
```

また、これは `.plist` という拡張子のファイルに納めるプロパティリストに変換することもできます。その形式の説明は `plstore.el` ライブラリーにあります:

```
((("foo" :host "yourmachine.com" :port "http"
    :user "testuser" :password "testpass")))
```

ファイルベースのデータストアを指す `auth-sources` 内のエントリーは、基礎となるデータファイルが存在しない場合には無視されます。これは、新しい秘密をファイルに保存する必要がある場合に重要です; `auth-sources` の最初の使用可能なエントリーがターゲットとして選択されます。代わりに、存在しないファイルを指すエントリーを選択したい場合は、ユーザーオプション `auth-source-ignore-non-existing-file` を `nil` に設定してください。 `auth-sources` のデフォルト値を使用すると、新しい秘密が `~/.authinfo` に平文で保存されてしまうことに注意してください。

3 複数の GMail アカウントを Gnus で扱う

複数の GMail アカウントを Gnus で扱うには、別の名前で 2 つのエントリーを `gnus-secondary-select-methods` に作る必要があります:

```
(setq gnus-secondary-select-methods '((nnimap "gmail"
                                             (nnimap-address "imap.gmail.com")))
      (nnimap "gmail2"
              (nnimap-address "imap.gmail.com"))))
```

そうすると `netrc` は次のようになるでしょう:

```
machine gmail login account@gmail.com password "account password" port imap
machine gmail2 login account2@gmail.com password "account2 password" port imap
```

4 シークレットサービス API

Secret Service API はパスワードや他の機密情報を安全に保存するためのfreedesktop.org (<https://www.freedesktop.org/wiki/Specifications/secret-storage-spec/>) による標準です。この API は GNOME 鍵リングと KDE ウォレットのようなシステム・デーモン(それぞれ最近はたいていの GNU/Linux システムに備わってる GNOME と KDE のパッケージ) によって実装されます。そして KeePassXC でもテスト済みです。

`auth-source` ライブラリーはシークレットサービス API を通してつなぐ `secrets.el` ライブラリーを使います。そのライブラリーを他のパッケージでも使うことができます。`auth-source` 専用ではありません。

secrets-enabled [変数]

この変数が `nil` ではない値だったら `secrets.el` を読み込んだ後にシークレットサービス API を提供するデーモンを表示します。

secrets-show-secrets [Command]

このコマンドはすべてのコレクション、item、およびそれらの属性を表示します。

シークレットサービス API によって管理されるアトミックオブジェクトは *secret items* です。それらはパスワードのようなアプリケーションが安全に保存することを必要とするものの集合です。Secret items はラベル(名前)、*secret* (パスワードのような文字列)、およびロックアップ属性を持ちます。属性は後日 *secret item* を検索したり取り出すために使うことができます。

Secret items は *collections* にグループ化されます。コレクションは GNOME 鍵リングと KDE ウォレットでは時に *'keyring'* または *'wallet'* と呼ばれますが同じもので、*secrets* の集合です。コレクションは個人の持ち物で保護されていて、持ち主だけがそれらを開くことができます。

もっとも一般的なコレクションは *"login"* と呼ばれます。

コレクションは別名を持つことができます。一般に *"default"* という別名が使われるので、クライアントは開くコレクションの明示的な名前を知っている必要がありません。他の別名はまだサポートされていません。別名はどこからでもアクセスできるので、適切であることを確信している場合に限って別名 *"default"* を設定してください。

secrets-list-collections [関数]

この関数はすべてのコレクション名をリストで返します。

secrets-set-alias *collection alias* [関数]

alias を *collection* という名のコレクションの別名として設定します。今のところ別名 *"default"* だけがサポートされています。

secrets-get-alias *alias* [関数]

alias に相当するコレクション名を返します。今のところ別名 *"default"* だけがサポートされています。

コレクションは関数 `secrets-create-collection` および `secrets-delete-collection` で作ったり削除することができます。通常これは Emacs の中からは行なわれません。 *"login"* のような標準のコレクションを削除しないでください。

GNOME キーリングには"session" と呼ばれる特別なコレクションがあって、ユーザーがログインしている期間に渡って存在します。そのデータはディスクに保存されず、ユーザーがログアウトすると消えます。したがって、秘密のアイテムを一時的に保存および取得するために使うことができます。秘密のアイテムが永久に有効であってはならない場合、"session" コレクションは永続的なコレクションよりも優れています。"session" コレクションは、コレクションパラメータが必要な場合はいつでも、文字列"session" またはnilのいずれかを指定してアクセスすることができます。

ただし、他のシークレットサービスプロバイダーは、この臨時の"session" コレクションを作成しません。使用する前に、まずこのコレクションが存在することを確認する必要があります。

secrets-list-items *collection* [関数]
collection のすべての *item* のラベルをリストで返します。

secrets-create-item *collection item password &rest attributes* [関数]
 この関数はラベル*item* とパスワード*password* を備えた新しい *item* を *collection* の中に作ります。ラベル*item* は*collection* の中でユニークである必要はありません。*attributes* は生成される *item* に設定される鍵と値の対です。鍵はコロンで始まるキーワード・シンボルで、その値は文字列です。以下に例を示します:

```
;; コレクションは "session" 、ラベルは "my item" で
;; secret (パスワード) は "geheim" です。
(secrets-create-item "session" "my item" "geheim"
 :method "sudo" :user "joe" :host "remote-host")
```

:xdg:schema キーは生成される *item* の範囲、すなわち *item* が目的とするアプリケーション、を決定します。これは"org.freedesktop.NetworkManager.Mobile"、あるいは"org.gnome.OnlineAccounts" のような単なる文字列で、他の必要なキーはこれによって決定されます。もし:xdg:schema の指定が無い場合は、デフォルトで"org.freedesktop.Secret.Generic" が使われます。

secrets-get-secret *collection item* [関数]
collection の中で *item* というラベルが付いている *item* の secret を返します。もし *item* というラベルの *item* がいくつかある場合、どれが返されるかは決まっています。該当する *item* が無い場合はnil を返します。

secrets-delete-item *collection item* [関数]
 この関数は*collection* の中の *item* という *item* を取り除きます。もし *item* というラベルの *item* がいくつかある場合、どれが取り除かれるかは決まっています。

Secret *item* を生成する間に設定されるルックアップ属性は、鍵と値の対でなければなりません。鍵はコロンで始まるキーワード・シンボル、値は文字列です。それらは与えられた secret *item* から取り出すことができ、それらを使って *item* を逆引きすることができます。

secrets-get-attribute *collection item attribute* [関数]
collection の中で *item* というラベルが付いている *item* の、鍵*attribute* に対応する値を返します。もし *item* というラベルの *item* がいくつかある場合、どれが返されるかは決まっています。該当する *item* が無かったり *item* がこの鍵を持っていない場合、この関数はnil を返します。

secrets-get-attributes *collection item* [関数]

collection の中で *item* というラベルが付いている、*item* のルックアップ属性を返します。もし *item* というラベルの *item* がいくつかある場合、どれが返されるかは決まっています。該当する *item* が無かったり *item* が属性を持っていない場合は `nil` を返します。以下に例を示します:

```
(secrets-get-attributes "session" "my item")
⇒ ((:user . "joe") (:host . "remote-host"))
```

secrets-search-items *collection &rest attributes* [関数]

collection の中で合致する *attributes* を持つ *item* を探します。 *attributes* は `secrets-create-item` で使われる鍵と値の対です。以下に例を示します:

```
(secrets-search-items "session" :user "joe")
⇒ ("my item" "another item")
```

`auth-source` ライブラリーは `"secrets:collection"` に合致する `source` を検索するとき、`secrets.el` ライブラリーに加えて次のようにシークレットサービス API を使います。例えば `"session"` コレクションを Emacs が走っている間だけ開くために `"secrets:session"` を使うことができます。あるいは `"Login"` コレクションを開くためには `"secrets:Login"` が使えます。特別な場合として `auth-sources` の中では別名 `"default"` を示すために `default` というシンボル(文字列ではない)を使うことができます。ここに 3 つのコレクションを検索し、無かったら `~/.authinfo.gpg` を使うように `auth-sources` を設定するためのわざとらしい例があります。

```
(setopt auth-sources '(default
                        "secrets:session"
                        "secrets:Login"
                        "~/authinfo.gpg"))
```

文字列ではない `auth-source` 仕様の属性値(ポート番号など) は、`secrets.el` の関数を呼び出す前に文字列にされます。

5 Unix パスワード・マネージャー

標準 Unix パスワードマネージャー (<https://www.passwordstore.org>) (または単に‘pass’) は、あなたのパスワードを Unix 哲学に基づいて `gpg` で保護されたファイルに格納します。格納する場所(任意のディレクトリー) は、ユーザーオプション `auth-source-pass-filename` で指定しなければなりません。デフォルトは `~/.password-store` です。

Emacs の‘pass’の統合は、パス・プロジェクト自体によって提案された、データを検索するためのデータの組織化の取り組みです。特に、ホスト `gnu.org` およびポート 22 にユーザー `rms` のパスワードを保存するには、次のファイル名のいずれかを使用してください。

`gnu.org.gpg`

ファイル名にユーザー名またはポートがない場合は、どんなユーザー名とポートも合致することを意味します。

`gnu.org/rms.gpg`

合致するユーザー名は、名前がホストと合致するディレクトリ内のファイル名として表すことができます。これはストアに同じホスト上の複数のユーザーのパスワードがある場合に便利です。

`rms@gnu.org.gpg`

ユーザー名はアットマーク(@) でホストから分離された接頭辞として表すこともできます。

`gnu.org:22.gpg`

合致させるポート(あるいはサービス) はホストの後にのみ記述することができ、コロン(:) で区切ります。区切り文字はユーザーオプション `auth-source-pass-port-separator` で変更可能です。

`gnu.org:22/rms.gpg`

`rms@gnu.org:22.gpg`

`a/b/gnu.org.gpg`

エントリーは任意のディレクトリーに格納することができます。

`a/b/gnu.org/rms.gpg`

`a/b/rms@gnu.org.gpg`

`a/b/gnu.org:22.gpg`

`a/b/gnu.org:22/rms.gpg`

`a/b/rms@gnu.org:22.gpg`

複数のエントリーが合致する場合、最も多くの項目に合致するものが優先されます(ここで「項目」はユーザー名、ポート、またはホストのいずれかです)。たとえば、ホスト `gnu.org` およびポート 22 の `rms` ユーザーに合致するエントリを検索しているとき、エントリー `gnu.org:22/rms.gpg` は `gnu.org.gpg` より優先されます。ただし、オプション `auth-source-pass-extra-query-keywords` が `t` に設定されている場合は、そのような処理は行ないません。

‘pass’のユーザーは、Emacs パッケージが提供する機能にも興味があるかもしれません:

- `password-store` (<https://git.zx2c4.com/password-store/tree/contrib/emacs/password-store.el>): ‘pass’をラップするライブラリー;
- `pass` (<https://github.com/NicolasPetton/pass>): パスワード・マネージャーとエントリーを編集するためのメジャーモード;

- `helm-pass` (<https://github.com/jabranham/helm-pass>): パスへの `helm` インターフェース。

auth-source-pass-filename [ユーザオプション]
このユーザーオプションをディスク上のパスワードストアを特定する文字列に設定してください。デフォルトは`~/.password-store`です。

auth-source-pass-port-separator [ユーザオプション]
このユーザーオプションを、エントリー内のポートからホスト名を区切る文字列に設定してください。デフォルトは`:'`です。

auth-source-pass-extra-query-keywords [ユーザオプション]
これは利用可能なキーワードの選択肢を`:max`と`:require`を含むように拡張して、それらの多くに問い合わせパラメーターのリストを引数として受け入れるように指示します。検索するときは、`:user` パラメーターが指定されているかどうかにかかわらず、`'gnu.org/rms.gpg'` 形式よりも`'rms@gnu.org.gpg'` 形式のユーザー名を優先します。

一般に、ファイル名のフィールド数を優先したり、サブドメインのラベルと照合するなど、このバックエンドが伝統的に示す特異性を好む場合は、このオプションを`nil` (デフォルト) に設定してください。しかし、他の認証元バックエンドに関連する検索の結果を予測する際に問題が発生した場合、または複数のバックエンドに一様に問い合わせることを期待するコードに遭遇した場合は、`t` に切り替えてください。

6 開発者のためのヘルプ

auth-source ライブラリーは、何らかの動作を行なった結果の記録を採ることができます。

auth-source-debug [ユーザオブション]
 このユーザオブションを `trivia` にすると、`*Messages*` バッファへのたくさんの出力を見ることができます。あるいはこれに `message` に似た関数を設定して、あなた独自のやり方で記録を採ることもできます。

auth-source ライブラリーには、外部で使うための関数は少ししかありません。

auth-source-search *&rest spec &key type max host user port secret* [関数]
require create delete &allow-other-keys
 この関数は *spec* に従って認証バックエンドを探し(または変更し)ます。詳細はその関数の docstring を見てください。

では Gnus の `nnimap.el` から `auth-source-search` を使う例を見てみましょう。

```
(defun nnimap-credentials (address ports)
  (let* ((auth-source-creation-prompts
         '(("user" . "IMAP user at %h: ")
           ("secret" . "IMAP password for %u@%h: ")))
        (found (nth 0 (auth-source-search :max 1
                                           :host address
                                           :port ports
                                           :require '(:user :secret)
                                           :create t))))
    (if found
        (list (plist-get found :user)
              (auth-info-password found)
              (plist-get found :save-function))
        nil)))
```

この呼び出しはその結果にユーザー名とパスワード(式中の `secret`) が含まれることを求めています。さらに、もしその項目がまだ無かったら作る必要もあります。その項目を作る際にユーザーとやり取りする場合は、式中にある質問文が使われます。この呼び出しは、ユーザーへの質問文のデフォルト値のために `auth-source-creation-defaults` にあるデータを渡すこともできます。

パスワードがもし関数だったら、それは評価される必要があることに注意してください。ある程度の安全対策として、それは関数で包まれています。

その後ログインに成功したら `nnimap.el` は次のように `:save-function` を呼びます:

```
(when (functionp (nth 2 credentials))
  (funcall (nth 2 credentials)))
```

これは `:save-function` の有無に関わらず動作するでしょう。`:save-function` は新しい項目が作られたときだけ提供されるので、これは実際に「ログイン成功後」なのです。そして我々がちょうど使っていた認証情報(ただしこれが新たに作られたものであるのなら)をセーブします。

最初にそれが呼ばれた後、`:save-function` が再度走ることはありません(しかしもし `auth-source-debug` を `trivia` に設定してあるならば、そのことを多少記録します。これすなわち、それは鬱陶しい同じ質問が繰り返されることはないということです。

したがって `:create t` を設定した API ユーザーの責任は、もし存在するならば `:save-function` を呼ぶことです。

`auth-source-delete &rest spec &key delete &allow-other-keys` [関数]

この関数は `spec` に合致するエントリーを認証バックエンドから取り除きます。取り除かれたエントリーを返します。実際にはバックエンドはそれらのエントリーを取り除かないかもしれません。

`auth-source-forget spec` [関数]

この関数は厳密に `spec` に合致するすべてのキャッシュされたデータを忘れ(訳注: 無効にし) ます。いくつかのデータを忘れるときは `t` を、合致するデータが見つからなかったときは `nil` を返します。

`auth-source-forget+ &rest spec &allow-other-keys` [関数]

この関数は `spec` に合致するすべてのキャッシュされたデータを忘れ(訳注: 無効にし) ます。忘れたデータの数を返します。

`auth-source-pick-first-password &rest spec` [関数]

この関数は `auth-source-search` を `spec` に適用して、最初に見つかったレコードのパスワードを返します。

`auth-info-password auth-info` [関数]

この関数は `auth-info` レコードからパスワード文字列を抽出します。

付録 A GnuPG および EasyPG アシスタントの設定

もしユーザーオプション `auth-sources` が `~/.authinfo` より前に `~/.authinfo.gpg` を含んでいるならば、`auth-source` ライブラリーは暗号化されていないファイルより先に、まずは GnuPG で暗号化された `.gpg` を読み込もうとします。

Emacs に同梱されている EasyPG アシスタントは、暗号化されたファイルの復号を自動的に処理します。See *EasyPG Assistant User's Manual*. これは GnuPG、GNU Privacy Guard への Emacs ユーザーインターフェースです。See *Using the GNU Privacy Guard*. これらをすぐに始めるには See Section “Quick Start” in *EasyPG Assistant User's Manual*.

付録 B GNU Free Documentation License

Version 1.3, 3 November 2008

Copyright © 2000, 2001, 2002, 2007, 2008 Free Software Foundation, Inc.

<http://fsf.org/>

Everyone is permitted to copy and distribute verbatim copies of this license document, but changing it is not allowed.

0. PREAMBLE

The purpose of this License is to make a manual, textbook, or other functional and useful document *free* in the sense of freedom: to assure everyone the effective freedom to copy and redistribute it, with or without modifying it, either commercially or non-commercially. Secondly, this License preserves for the author and publisher a way to get credit for their work, while not being considered responsible for modifications made by others.

This License is a kind of “copyleft”, which means that derivative works of the document must themselves be free in the same sense. It complements the GNU General Public License, which is a copyleft license designed for free software.

We have designed this License in order to use it for manuals for free software, because free software needs free documentation: a free program should come with manuals providing the same freedoms that the software does. But this License is not limited to software manuals; it can be used for any textual work, regardless of subject matter or whether it is published as a printed book. We recommend this License principally for works whose purpose is instruction or reference.

1. APPLICABILITY AND DEFINITIONS

This License applies to any manual or other work, in any medium, that contains a notice placed by the copyright holder saying it can be distributed under the terms of this License. Such a notice grants a world-wide, royalty-free license, unlimited in duration, to use that work under the conditions stated herein. The “Document”, below, refers to any such manual or work. Any member of the public is a licensee, and is addressed as “you”. You accept the license if you copy, modify or distribute the work in a way requiring permission under copyright law.

A “Modified Version” of the Document means any work containing the Document or a portion of it, either copied verbatim, or with modifications and/or translated into another language.

A “Secondary Section” is a named appendix or a front-matter section of the Document that deals exclusively with the relationship of the publishers or authors of the Document to the Document’s overall subject (or to related matters) and contains nothing that could fall directly within that overall subject. (Thus, if the Document is in part a textbook of mathematics, a Secondary Section may not explain any mathematics.) The relationship could be a matter of historical connection with the subject or with related matters, or of legal, commercial, philosophical, ethical or political position regarding them.

The “Invariant Sections” are certain Secondary Sections whose titles are designated, as being those of Invariant Sections, in the notice that says that the Document is released

under this License. If a section does not fit the above definition of Secondary then it is not allowed to be designated as Invariant. The Document may contain zero Invariant Sections. If the Document does not identify any Invariant Sections then there are none.

The “Cover Texts” are certain short passages of text that are listed, as Front-Cover Texts or Back-Cover Texts, in the notice that says that the Document is released under this License. A Front-Cover Text may be at most 5 words, and a Back-Cover Text may be at most 25 words.

A “Transparent” copy of the Document means a machine-readable copy, represented in a format whose specification is available to the general public, that is suitable for revising the document straightforwardly with generic text editors or (for images composed of pixels) generic paint programs or (for drawings) some widely available drawing editor, and that is suitable for input to text formatters or for automatic translation to a variety of formats suitable for input to text formatters. A copy made in an otherwise Transparent file format whose markup, or absence of markup, has been arranged to thwart or discourage subsequent modification by readers is not Transparent. An image format is not Transparent if used for any substantial amount of text. A copy that is not “Transparent” is called “Opaque”.

Examples of suitable formats for Transparent copies include plain ASCII without markup, Texinfo input format, LaTeX input format, SGML or XML using a publicly available DTD, and standard-conforming simple HTML, PostScript or PDF designed for human modification. Examples of transparent image formats include PNG, XCF and JPG. Opaque formats include proprietary formats that can be read and edited only by proprietary word processors, SGML or XML for which the DTD and/or processing tools are not generally available, and the machine-generated HTML, PostScript or PDF produced by some word processors for output purposes only.

The “Title Page” means, for a printed book, the title page itself, plus such following pages as are needed to hold, legibly, the material this License requires to appear in the title page. For works in formats which do not have any title page as such, “Title Page” means the text near the most prominent appearance of the work’s title, preceding the beginning of the body of the text.

The “publisher” means any person or entity that distributes copies of the Document to the public.

A section “Entitled XYZ” means a named subunit of the Document whose title either is precisely XYZ or contains XYZ in parentheses following text that translates XYZ in another language. (Here XYZ stands for a specific section name mentioned below, such as “Acknowledgements”, “Dedications”, “Endorsements”, or “History”.) To “Preserve the Title” of such a section when you modify the Document means that it remains a section “Entitled XYZ” according to this definition.

The Document may include Warranty Disclaimers next to the notice which states that this License applies to the Document. These Warranty Disclaimers are considered to be included by reference in this License, but only as regards disclaiming warranties: any other implication that these Warranty Disclaimers may have is void and has no effect on the meaning of this License.

2. VERBATIM COPYING

You may copy and distribute the Document in any medium, either commercially or noncommercially, provided that this License, the copyright notices, and the license notice saying this License applies to the Document are reproduced in all copies, and that you add no other conditions whatsoever to those of this License. You may not use technical measures to obstruct or control the reading or further copying of the copies you make or distribute. However, you may accept compensation in exchange for copies. If you distribute a large enough number of copies you must also follow the conditions in section 3.

You may also lend copies, under the same conditions stated above, and you may publicly display copies.

3. COPYING IN QUANTITY

If you publish printed copies (or copies in media that commonly have printed covers) of the Document, numbering more than 100, and the Document's license notice requires Cover Texts, you must enclose the copies in covers that carry, clearly and legibly, all these Cover Texts: Front-Cover Texts on the front cover, and Back-Cover Texts on the back cover. Both covers must also clearly and legibly identify you as the publisher of these copies. The front cover must present the full title with all words of the title equally prominent and visible. You may add other material on the covers in addition. Copying with changes limited to the covers, as long as they preserve the title of the Document and satisfy these conditions, can be treated as verbatim copying in other respects.

If the required texts for either cover are too voluminous to fit legibly, you should put the first ones listed (as many as fit reasonably) on the actual cover, and continue the rest onto adjacent pages.

If you publish or distribute Opaque copies of the Document numbering more than 100, you must either include a machine-readable Transparent copy along with each Opaque copy, or state in or with each Opaque copy a computer-network location from which the general network-using public has access to download using public-standard network protocols a complete Transparent copy of the Document, free of added material. If you use the latter option, you must take reasonably prudent steps, when you begin distribution of Opaque copies in quantity, to ensure that this Transparent copy will remain thus accessible at the stated location until at least one year after the last time you distribute an Opaque copy (directly or through your agents or retailers) of that edition to the public.

It is requested, but not required, that you contact the authors of the Document well before redistributing any large number of copies, to give them a chance to provide you with an updated version of the Document.

4. MODIFICATIONS

You may copy and distribute a Modified Version of the Document under the conditions of sections 2 and 3 above, provided that you release the Modified Version under precisely this License, with the Modified Version filling the role of the Document, thus licensing distribution and modification of the Modified Version to whoever possesses a copy of it. In addition, you must do these things in the Modified Version:

- A. Use in the Title Page (and on the covers, if any) a title distinct from that of the Document, and from those of previous versions (which should, if there were any,

- be listed in the History section of the Document). You may use the same title as a previous version if the original publisher of that version gives permission.
- B. List on the Title Page, as authors, one or more persons or entities responsible for authorship of the modifications in the Modified Version, together with at least five of the principal authors of the Document (all of its principal authors, if it has fewer than five), unless they release you from this requirement.
 - C. State on the Title page the name of the publisher of the Modified Version, as the publisher.
 - D. Preserve all the copyright notices of the Document.
 - E. Add an appropriate copyright notice for your modifications adjacent to the other copyright notices.
 - F. Include, immediately after the copyright notices, a license notice giving the public permission to use the Modified Version under the terms of this License, in the form shown in the Addendum below.
 - G. Preserve in that license notice the full lists of Invariant Sections and required Cover Texts given in the Document's license notice.
 - H. Include an unaltered copy of this License.
 - I. Preserve the section Entitled "History", Preserve its Title, and add to it an item stating at least the title, year, new authors, and publisher of the Modified Version as given on the Title Page. If there is no section Entitled "History" in the Document, create one stating the title, year, authors, and publisher of the Document as given on its Title Page, then add an item describing the Modified Version as stated in the previous sentence.
 - J. Preserve the network location, if any, given in the Document for public access to a Transparent copy of the Document, and likewise the network locations given in the Document for previous versions it was based on. These may be placed in the "History" section. You may omit a network location for a work that was published at least four years before the Document itself, or if the original publisher of the version it refers to gives permission.
 - K. For any section Entitled "Acknowledgements" or "Dedications", Preserve the Title of the section, and preserve in the section all the substance and tone of each of the contributor acknowledgements and/or dedications given therein.
 - L. Preserve all the Invariant Sections of the Document, unaltered in their text and in their titles. Section numbers or the equivalent are not considered part of the section titles.
 - M. Delete any section Entitled "Endorsements". Such a section may not be included in the Modified Version.
 - N. Do not retitle any existing section to be Entitled "Endorsements" or to conflict in title with any Invariant Section.
 - O. Preserve any Warranty Disclaimers.

If the Modified Version includes new front-matter sections or appendices that qualify as Secondary Sections and contain no material copied from the Document, you may at your option designate some or all of these sections as invariant. To do this, add their

titles to the list of Invariant Sections in the Modified Version's license notice. These titles must be distinct from any other section titles.

You may add a section Entitled “Endorsements”, provided it contains nothing but endorsements of your Modified Version by various parties---for example, statements of peer review or that the text has been approved by an organization as the authoritative definition of a standard.

You may add a passage of up to five words as a Front-Cover Text, and a passage of up to 25 words as a Back-Cover Text, to the end of the list of Cover Texts in the Modified Version. Only one passage of Front-Cover Text and one of Back-Cover Text may be added by (or through arrangements made by) any one entity. If the Document already includes a cover text for the same cover, previously added by you or by arrangement made by the same entity you are acting on behalf of, you may not add another; but you may replace the old one, on explicit permission from the previous publisher that added the old one.

The author(s) and publisher(s) of the Document do not by this License give permission to use their names for publicity for or to assert or imply endorsement of any Modified Version.

5. COMBINING DOCUMENTS

You may combine the Document with other documents released under this License, under the terms defined in section 4 above for modified versions, provided that you include in the combination all of the Invariant Sections of all of the original documents, unmodified, and list them all as Invariant Sections of your combined work in its license notice, and that you preserve all their Warranty Disclaimers.

The combined work need only contain one copy of this License, and multiple identical Invariant Sections may be replaced with a single copy. If there are multiple Invariant Sections with the same name but different contents, make the title of each such section unique by adding at the end of it, in parentheses, the name of the original author or publisher of that section if known, or else a unique number. Make the same adjustment to the section titles in the list of Invariant Sections in the license notice of the combined work.

In the combination, you must combine any sections Entitled “History” in the various original documents, forming one section Entitled “History”; likewise combine any sections Entitled “Acknowledgements”, and any sections Entitled “Dedications”. You must delete all sections Entitled “Endorsements.”

6. COLLECTIONS OF DOCUMENTS

You may make a collection consisting of the Document and other documents released under this License, and replace the individual copies of this License in the various documents with a single copy that is included in the collection, provided that you follow the rules of this License for verbatim copying of each of the documents in all other respects.

You may extract a single document from such a collection, and distribute it individually under this License, provided you insert a copy of this License into the extracted document, and follow this License in all other respects regarding verbatim copying of that document.

7. AGGREGATION WITH INDEPENDENT WORKS

A compilation of the Document or its derivatives with other separate and independent documents or works, in or on a volume of a storage or distribution medium, is called an “aggregate” if the copyright resulting from the compilation is not used to limit the legal rights of the compilation’s users beyond what the individual works permit. When the Document is included in an aggregate, this License does not apply to the other works in the aggregate which are not themselves derivative works of the Document.

If the Cover Text requirement of section 3 is applicable to these copies of the Document, then if the Document is less than one half of the entire aggregate, the Document’s Cover Texts may be placed on covers that bracket the Document within the aggregate, or the electronic equivalent of covers if the Document is in electronic form. Otherwise they must appear on printed covers that bracket the whole aggregate.

8. TRANSLATION

Translation is considered a kind of modification, so you may distribute translations of the Document under the terms of section 4. Replacing Invariant Sections with translations requires special permission from their copyright holders, but you may include translations of some or all Invariant Sections in addition to the original versions of these Invariant Sections. You may include a translation of this License, and all the license notices in the Document, and any Warranty Disclaimers, provided that you also include the original English version of this License and the original versions of those notices and disclaimers. In case of a disagreement between the translation and the original version of this License or a notice or disclaimer, the original version will prevail.

If a section in the Document is Entitled “Acknowledgements”, “Dedications”, or “History”, the requirement (section 4) to Preserve its Title (section 1) will typically require changing the actual title.

9. TERMINATION

You may not copy, modify, sublicense, or distribute the Document except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense, or distribute it is void, and will automatically terminate your rights under this License.

However, if you cease all violation of this License, then your license from a particular copyright holder is reinstated (a) provisionally, unless and until the copyright holder explicitly and finally terminates your license, and (b) permanently, if the copyright holder fails to notify you of the violation by some reasonable means prior to 60 days after the cessation.

Moreover, your license from a particular copyright holder is reinstated permanently if the copyright holder notifies you of the violation by some reasonable means, this is the first time you have received notice of violation of this License (for any work) from that copyright holder, and you cure the violation prior to 30 days after your receipt of the notice.

Termination of your rights under this section does not terminate the licenses of parties who have received copies or rights from you under this License. If your rights have been terminated and not permanently reinstated, receipt of a copy of some or all of the same material does not give you any rights to use it.

10. FUTURE REVISIONS OF THIS LICENSE

The Free Software Foundation may publish new, revised versions of the GNU Free Documentation License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns. See <http://www.gnu.org/copyleft/>.

Each version of the License is given a distinguishing version number. If the Document specifies that a particular numbered version of this License “or any later version” applies to it, you have the option of following the terms and conditions either of that specified version or of any later version that has been published (not as a draft) by the Free Software Foundation. If the Document does not specify a version number of this License, you may choose any version ever published (not as a draft) by the Free Software Foundation. If the Document specifies that a proxy can decide which future versions of this License can be used, that proxy’s public statement of acceptance of a version permanently authorizes you to choose that version for the Document.

11. RELICENSING

“Massive Multiauthor Collaboration Site” (or “MMC Site”) means any World Wide Web server that publishes copyrightable works and also provides prominent facilities for anybody to edit those works. A public wiki that anybody can edit is an example of such a server. A “Massive Multiauthor Collaboration” (or “MMC”) contained in the site means any set of copyrightable works thus published on the MMC site.

“CC-BY-SA” means the Creative Commons Attribution-Share Alike 3.0 license published by Creative Commons Corporation, a not-for-profit corporation with a principal place of business in San Francisco, California, as well as future copyleft versions of that license published by that same organization.

“Incorporate” means to publish or republish a Document, in whole or in part, as part of another Document.

An MMC is “eligible for relicensing” if it is licensed under this License, and if all works that were first published under this License somewhere other than this MMC, and subsequently incorporated in whole or in part into the MMC, (1) had no cover texts or invariant sections, and (2) were thus incorporated prior to November 1, 2008.

The operator of an MMC Site may republish an MMC contained in the site under CC-BY-SA on the same site at any time before August 1, 2009, provided the MMC is eligible for relicensing.

ADDENDUM: How to use this License for your documents

To use this License in a document you have written, include a copy of the License in the document and put the following copyright and license notices just after the title page:

```
Copyright (C)  year  your name.
Permission is granted to copy, distribute and/or modify this document
under the terms of the GNU Free Documentation License, Version 1.3
or any later version published by the Free Software Foundation;
with no Invariant Sections, no Front-Cover Texts, and no Back-Cover
Texts.  A copy of the license is included in the section entitled ``GNU
Free Documentation License''.
```

If you have Invariant Sections, Front-Cover Texts and Back-Cover Texts, replace the “with...Texts.” line with this:

```
with the Invariant Sections being list their titles, with
the Front-Cover Texts being list, and with the Back-Cover Texts
being list.
```

If you have Invariant Sections without Cover Texts, or some other combination of the three, merge those two alternatives to suit the situation.

If your document contains nontrivial examples of program code, we recommend releasing these examples in parallel under your choice of free software license, such as the GNU General Public License, to permit their use in free software.

Index

I

Install 1

M

manage remote sieve script 2

S

Setup 1

sieve-activate 3

sieve-bury-buffer 3

sieve-deactivate 3

sieve-deactivate-all 3

sieve-edit-script 3

sieve-edit-script-other-window 3

sieve-help 3

sieve-manage 2

sieve-manage-authenticate 5

sieve-manage-capability 5

sieve-manage-close 5

sieve-manage-default-port 5

sieve-manage-getscript 5

sieve-manage-havespace 5

sieve-manage-listscripts 5

sieve-manage-log 5

sieve-manage-open 5

sieve-manage-opened 5

sieve-manage-putscript 5

sieve-manage-quit 3

sieve-manage-setactive 5

sieve-mode-map 2

sieve-mode-syntax-table 2

sieve-refresh-scriptlist 3

sieve-remove 3

sieve-upload 2

U

upload sieve script 2

Function Index

A

auth-info-password.....	12
auth-source-delete.....	12
auth-source-forget.....	12
auth-source-forget+.....	12
auth-source-pick-first-password.....	12
auth-source-search.....	11

S

secrets-create-item.....	7
secrets-delete-item.....	7
secrets-get-alias.....	6
secrets-get-attribute.....	7
secrets-get-attributes.....	8
secrets-get-secret.....	7
secrets-list-collections.....	6
secrets-list-items.....	7
secrets-search-items.....	8
secrets-set-alias.....	6
secrets-show-secrets.....	6

Variable Index

A

auth-source-creation-defaults 11
auth-source-debug 11
auth-source-ignore-non-existing-file 4
auth-source-pass-extra-query-keywords 10
auth-source-pass-filename 10

auth-source-pass-port-separator 10
auth-sources 3

S

secrets-enabled 6